

# 带状疱疹

# 学習内容

- 帯状疱疹とは
- 感染対策
- 予防策

# 帯状疱疹とは

- 水痘・帯状疱疹ウイルス(VZV)によって起きる
- 初回感染では水痘として発症
- 水痘が治癒した後もウイルスが神経に潜伏しており、加齢やストレスなどで免疫が低下した時に、ウイルスが再活性化し、帯状疱疹が発症する

# 帯状疱疹の臨床像



CDCウェブサイトより引用

<https://www.cdc.gov/shingles/about/photos.html>

# 疫学

- 成人のVZVに対する抗体保有率は90%以上であり、成人のほとんどがVZVに既感染で、帯状疱疹の発症リスクを有している
- 50歳から発症率が高くなり、80歳までに約3人に1人が帯状疱疹を発症すると言われている

# 症状・合併症

- 神経に沿って痛みを伴う赤い発疹，水疱が出現する
- 2～4週間程度で水疱が破れ，痂皮化し，皮膚症状が治まる
- 皮膚症状が治った後も，神経の損傷によって，「帯状疱疹後神経痛」と呼ばれる痛みが長期間続く合併症を起こすことがある

# 治療

- 抗ウイルス薬の投与
- 重症例では入院して点滴治療
- 痛みに対する鎮痛剤投与

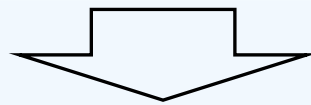
# 伝播経路

- 帯状疱疹患者の水疱液にVZVが存在する
- 主に接触によって、VZVに対する感受性者に感染し、水痘を発症しうる
- 局所的な帯状疱疹の場合、病変部が被覆されていると感染性は低くなる
- 全ての水疱が痂皮化すれば感染性はなくなる



# 帯状疱疹のヒトへの感染リスク

- 感受性のある家庭内接触者への感染リスク
  - 水痘の二次感染率は, 71.5%
  - 帯状疱疹の二次感染率は, 20%



- 水痘と比べ, リスクは低い, 感受性者への感染は起こり得る

# 感染経路別予防策

- 局所的な帯状疱疹の場合は、全ての水疱が痂皮化するまで接触予防策を要する
- 顔面の帯状疱疹や、免疫不全患者の帯状疱疹、播種性帯状疱疹では感染性が高いため、水痘に準じて、空気および接触予防策を要する

(対策は「14. 水痘・麻疹・風疹・流行性耳下腺炎」参照)

# 手指衛生と個人防護具

- 患者接触時は手袋を着用する
- 患者接触後に手袋を外した後は手指衛生を行う
  - アルコールに効果あり
- 身体が患者や周辺環境に接触する可能性がある時は、ガウンまたはエプロンを着用する

# ガーゼ交換時の感染対策

- 病変部は被覆する
- ガーゼ交換時は、手袋、ビニールエプロン、サージカルマスクを着用する
- ガーゼ交換終了後は手指衛生を確実に行う
- 剥がしたガーゼはビニール袋に密封して、周囲環境を汚染させないように廃棄する

# その他の感染対策

- 多床室に入室する場合は、同室者に免疫不全者等のハイリスク者は避ける
- 浸出液が多い時は、シャワー浴とし、入る順番は最後にする
- タオル等は他の患者と共有しない
- リネンは通常通りの洗濯で差し支えない
- 環境や使用した物品等は、アルコールや第四級アンモニウム塩含浸クロス等で清掃する

# 職員が帯状疱疹を発症した場合

- 原則、患部が限局し、病変を被覆できれば、勤務継続は可能である
- 顔面の帯状疱疹の場合等は、感染性が高いため、就業制限を検討する
- 全ての病変が痂皮化するまで、乳児、妊婦、免疫不全患者など感染リスクがある患者との接触は控える

# 带状疱疹ワクチン

- 50歳以上が対象
- 带状疱疹の発症率を低減させ、重症化を予防するとともに、後遺症発症リスクを低減させる
- 生ワクチン(乾燥弱毒生水痘ワクチン)
  - 2016年3月、50歳以上の人に対する带状疱疹の予防効果が効能として追加
  - 60歳以上の带状疱疹発症率が51.3%減少
- 不活化ワクチン(乾燥組換え带状疱疹ワクチン)
  - 50歳以上の带状疱疹発症率が97.2%減少

## Q & A (1)

帯状疱疹は、他人への感染性はない

YES

NO

帯状疱疹は水痘と比較するとリスクは低いものの、感受性者への感染リスクはある。主には接触による感染であり、接触予防策が必要である。



## Q & A (2)

带状疱疹の患者は大部屋での管理でよい

YES

NO

患部が限局し、被覆できる場合は、大部屋の管理で差し支えない。ただし、顔面の带状疱疹や、免疫不全患者の带状疱疹、播種性带状疱疹では個室管理とし、空気および接触予防策が必要である。

## Q & A (3)

带状疱疹は、水疱が痂皮化するまで  
感染性がある

YES

NO

皮疹が出現してから、痂皮となるまでの期間は  
感染源となるため、感染対策が必要である。

# 参考文献

- 国立感染症研究所, 帯状疱疹ワクチン ファクトシート, 平成29(2017)年2月10日
- 国立感染症研究所感染症疫学センター, IASR. 2018; 39(8): 129–130.
- 日本環境感染学会, 医療関係者のためのワクチンガイドライン第3版, 2000.
- 国公立大学附属病院感染対策協議会, 病院感染対策ガイドライン2018年版.
- CDC, Shingles (Herpes Zoster)  
<https://www.cdc.gov/shingles/index.html>
- Guideline for infection control in healthcare personnel, 1998. Hospital Infection Control Practices Advisory Committee. Infect Control Hosp Epidemiol. 1998 Jun;19(6):407–63.